

令和七年度別府市小・中学生「人権作文」

別府市人権問題啓発推進協議会長賞

『自分らしき』って何だろう

別府市立南立石小学校五年 甲斐 奏

「自分らしき」とは一体何なのでしょう。身近な人たちと何気ないやり取りをしているとき、時々「奏らしいね」と言われることがあります。相手は私の普段の行動や言動から私への特定のイメージがあるのでしょうか。でも、相手は私の考えていることや、している行動を全て見て知っているわけでもないのに、なぜそのような言葉を使うのだろうと思います。相手の中にある私へのイメージと違う言動をもし私が取ったとしたら、それは私らしくないということになるのでしょうか。

「自分らしき」という言葉をインターネットで調べてみると、「人権」という言葉が一緒に出てきました。そこからさらに調べていく中で「人権とは、一人ひとりが生まれた時から持っている『自分らしく生きる』権利のこと」という言葉に行き当たりました。誰でも自分らしく生きていけることの大切さはわかりましたが、「自分らしく」とはどういうことでしょうか。周りの人が私に対して「奏らしい」というような言動が「私らしき」なのでしょうか。でも、私以外の人が私らしきを決めるのにはとても違和感があります。

少し、「らしき」という言葉について考えてみたいと思います。人には誰でも属性というものがあります。例えば私であれば「日本人」「女の子」「小学生」「末っ子」などの属性があり、それぞれ「日本人らしい」「女の子らしい」「小学生らしい」「末っ子らしい」という言葉を作ることができます。でも世の中には数えきれないほどの多くの「日本人」や「女の子」や「小学生」や「末っ子」がいて、その一人ひとは全く違っています。だから、私という人間をその属性を使って「らしき」で表現することはできないはずです。むしろ、そのような大ざっぱな見方で個人を表現すれば、本当のその人らしきは見えにくくなってしまっているのではないのでしょうか。

人権について調べていくと、「人権の八課題」というものがあることを知りました。それは部落差別

問題と、女性、子ども、障がい者、外国人、高齢者それぞれの人権の問題、医療をめぐる人権問題、そしてそのどれにも属さない例えば少数民族や性的マイノリティ、犯罪被害者などさまざまな人権問題です。そのような属性をもとに、差別やぎやく待が起こっているということです。確かにその属性自体は存在しますが、それは一人ひとり違う個人の一部分でしかありません。それを理由に差別したりされたりするのはとてもおかしいと思います。この違和感は、私が自分のことを全て知っているわけではない人から「奏らしいね」と言われたことと同じものだとはっと気付きました。そして、本人の気持ちとは関係なく一部分の属性でその人を判断して「らしき」を押し付けてしまうことは怖いことだなどおもいました。

私は、その属性の押しつけで一番恐ろしいと感じたのが戦争の話です。八月はテレビなどでたくさん戦争に関する話を見たり聞いたりする機会がありました。そして「日本人だから戦争に協力する」「男だから兵隊になって戦争に行く」などということが当たり前になり、それに逆らう意見は言えず、子どもたちにもそれを教え、「兵隊の命は消もう品だ」とまで言っていたことを知りました。「自分らしく生きる」どころか、ただ「生きる」ということさえ選ぶことができなかったことにとてもショックを受けました。もう二度とそのような世の中になってほしくないと強く思います。

私は「〇〇らしい」という言葉や考えは本人がその人自身に向けて使うものであるべきだと思います。同じものを見たとしても、どこに注目するか、どう感じるか、その人の心の奥まで他の人には見えません。そしてそれは一人ひとり違います。いろいろな場面で自分自身が何を感じて何を考えたか、それが「自分らしき」だと思います。ほかの人と比べた時の違いで「自分らしき」に気づける時もあるかもしれません。大切なのは、その違いに気づいたときに、どちらが上とか下とか優劣をつけたりせず、どれもそれぞれの人の個性だと認め合っていていけることだと思います。そうすることで、お互いが自分の好きなことや感じ方を否定されることなく、外からの決めつけや押し付けに負けずに、自分の個性、「自分らしき」に自信を持てるのではないのでしょうか。もし自分がこれから、だれかに「〇〇らしいね」と言ってしまうようなことがあったら、その前に一度立ち止まって、そこにどんな意味があるのか、言われた相手はどんな気持ちになるかを考えられるようにしていきたいです。